
京大上海センターニュースレター

第 135 号 2006 年 11 月 16 日

京都大学経済学研究科上海センター

目次

○ 「国際シンポジウム 近代上海像の再検討」のご案内

+++++
京都大学経済学研究科上海センター主催

「国際シンポジウム 近代上海像の再検討」のご案内

19 世紀後半から 20 世紀前半の中国を、単なる遅れた半植民地とみるのではなく、経済発展をともなした歴史として把握する研究潮流はすでに定着している。しかし、きわめて個性的な中国近代史を、普遍的な歴史認識のなかでどのように位置づけるべきかについて、多くの見解は収束していない。実証研究の進展にもかかわらず、全体としての共通の中国史像が構築されつつあるとはいえないようである。

そこで、京都大学上海センターは、近代中国史研究の前進に資すべく、広く専門研究者の協力を得てシンポジウムを開催することにした。多様な側面を持つ中国近代史に対しては、多くの研究視角を設定することができる。そこで、本シンポジウムは中国最大の経済都市である上海をとりあげ、その歴史像を総合的に検討することによって、中国近代史研究の新しい前進の道を開こうとするものである。その視角はつぎの 3 つである。

第一は、都市上海の発展の特質自体を明らかにすることである。近代の短い期間に、上海の経済や産業がどのようにして急速に発展し得たのかを、比較史の手法も含めて明らかにする。第二は、上海が中国の各地と取り結ぶ分業関係を解明することである。近代中国の個性を明らかにするために、中国一国で見るのではなく、上海を中心として形成された経済関係の変遷とその特質を分析することが有益だからである。第三は、上海の発展と世界経済との関係を検討することである。上海の経済発展が世界経済の動向とどのように繋がっていたのか、また逆に世界経済が上海のあり方をどのように規定していったかを分析する。つまり、国境をこえた広い視野で見るのが、近代上海の発展を把握する上で不可欠の作業であると考えらるからである。

このように、3 つの視角から上海の経済発展史を検討することによって、近代中国史の研究にいささかなりとも新たな議論を呼び起こしたいと考えている。多くの皆様のご参加を期待している。

■主催 京都大学上海センター

■日時 2007 年 1 月 21 日 (日) 午前 9 時～午後 6 時

■会場 京大会館 (京都市左京区吉田河原町 15-9 電話 075-751-8311)

■プログラム

午前 9 時～12 時

◇張忠民 (上海社会科学院) 「近代上海の都市総合競争力」

◇陳計堯 (東海大学) 「近代上海食糧市場の変遷——米穀と小麦粉の比較研究 1900-1936——」

◇堀和生（京都大学） 「上海の経済発展と日本帝国」

午後1時30分~6時

◇李培徳（香港大学） 「1920年代から1930年代まで上海銀行家の横領—上海商業儲蓄銀行を事例として—」

◇蕭文嫻（大阪経済大学） 「中国幣制改革と外国銀行」

◇小瀬一（龍谷大学） 「開港場間貿易と中国の市場統合」

◇木越義則（京都大学） 「両大戦間期上海における貿易物価構造」

午後6時~7時半 記念レセプション

■事務連絡先 〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院経済学研究科 堀 和生

電話 075-753-3438 ファックス 075-753-3499

e-mail hori@econ.kyoto-u.ac.jp

+++++